

各位

2020年6月19日
株式会社 PR TIMES
カスタマーリレーションズ本部長 小暮桃子

PR TIMES より配信された不適切なプレスリリースに関するお詫び、 ならびにご利用企業様へのプレスリリース上の表現に関するお願い

謹啓 平素 PR TIMES をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、PR TIMES をご利用いただく一企業様より2020年6月17日に、国の有効性評価や使用方法に慎重な結論が待たれる話題に関して、プレスリリース掲載基準に違反するプレスリリースが配信され、2020年6月18日にPR TIMES 運営側で当該プレスリリースを掲載停止し、同日に当該企業様のアカウントを利用停止しました。当該プレスリリースは複数の点で掲載基準に反しており、目にした方の誤解を招く事態となりました。①他団体からの発表かと誤解を招く断定表現で、②自社の企業活動でなく他団体の文書に対する自社の解釈を、③第三者の記事のような書出しで、発信していました。

プレスリリース掲載基準に抵触するものとしてサポートデスクが掲載取り下げするとともに、当該ご利用企業様のこれまでのご利用経緯から、アカウント利用停止の措置をとるに至りました。

適切に PR TIMES を活用して情報発表いただいている企業・団体の皆さま、情報源として取材活動にお役立っていただいているメディア・記者の皆さま、有用な最新情報として楽しんでいただいている生活者の皆さまへ、PR TIMES に対してご心配をお掛けすることとなり、誠に申し訳ございません。

PR TIMES は第一に信頼され得る企業発表情報の集合体であることが重要だと考えておりますので、本件の発生を弊社として重く捉え、今後の対策を講じてまいります。皆さまへご不安をお掛けしたことをお詫び申し上げますとともに、下記の通り経緯と原因、対応につきましてご報告いたします。

また、PR TIMES の配信に関する方針とその意図、そしてプレスリリースを配信いただく際のお願いを、改めてお伝えさせていただきます。

何卒、今後とも引き続き PR TIMES をご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 内容

弊社が運営するプレスリリース配信サービス「PR TIMES」において、2020年6月17日（水）19:02に本プレスリリースが配信され、掲載基準に抵触することから2020年6月18日（木）17:50頃に掲載を取下げました。また2020年6月18日（木）22:00に利用規約違反により本プレスリリース配信企業様に対し、ログイン権限の停止措置を行いました。

2. 経緯

2020年4月23日（木）

当該企業様が1件目のプレスリリースを配信。タイトルが不明瞭であったため弊社スタッフより当該企業ご担当者様へ連絡。修正依頼に応じていただく。

2020年6月2日（火）

当該企業様が発表主体の不明な内容のプレスリリースを配信。弊社スタッフより修正依頼を行い、に応じていただく。

2020年6月17日（水） 19:02

当該企業様が本プレスリリースを配信。

PR TIMES サイト掲載、メディアへのメール配信、SNS への投稿が実行される。

2020年6月18日（木） 9:10

弊社スタッフが本プレスリリースの内容を確認の上、パートナーメディアへ転載する処理を実行。

同日 13:00

弊社内からの指摘により本プレスリリースが不適切であることをサポートデスクが認知。弊社スタッフより当該企業様へ修正依頼を行う。

同日 17:50 頃

カスタマーリレーションズ本部長にて取り下げの判断。当該企業ご担当者様と電話連絡の上、即時お取り下げ。

同日 21:10

パートナーメディアでの掲載取り下げ依頼、検索結果からの取り下げ依頼、各 SNS 投稿の削除を完了。

同日 22:00

利用規約違反によりログイン権限を停止。

3. 原因

プレスリリース配信内容のチェック体制と社内教育、判断基準のルール設定とエスカレーション条件、ご利用企業様への掲載基準の周知に、それぞれ不備と不足があったと考えています。

本プレスリリースが 19:02 にサイトへ掲載後、翌日 9:10 にスタッフが内容を確認したにも関わらず見過ごし、適切な初動対応をとることができませんでした。またその後 13:00 に至るまで問題事象を認知できず、更に認知した後も、事態を適切な責任者へエスカレーションし判断を仰ぐことができなかったことで、即時取り下げの判断ができず、対応が大幅に遅れ、多くの人々が本プレスリリースを目にする事態を招きました。

加えて、本プレスリリースを配信したご利用企業様においては過去に複数回、利用規約や掲載基準への違反が確認されていたにも関わらず、適切な対処や社内での周知ができておらず、事態の深刻化を招きました。

4. 今後の対応策

今後、同様の問題を発生させないためにプレスリリース事後チェック体制を再構築し、不適切な内容が疑われる因子を含むプレスリリースの早期発見、その後の社内エスカレーション条件の整備と徹底、さらに SNS チェック強化によるリスクの早期把握に努めます。

- 今回の話題を含め、慎重な判断が必要とされるトピックを社内アラート対象にキーワード登録追加
- 掲載基準に関する社内教育の定期開催
- 判断基準と社内エスカレーション条件の整備、徹底
- SNS チェック強化のスタッフ配置と報告体制整備
- ご利用企業様への掲載基準周知と伝達方法の見直し、改善

弊社では本件について重く受け止め、PR TIMES の信用回復のため、社内教育の再徹底と再発防止に取り組んでまいります。また今後、重度の掲載基準の違反には厳正に対処してまいります。

5. タイムリーな配信の実現と掲載基準につきまして

広報活動において、発表のスピード感は他に代え難い重要性を持つため、PR TIMES ではご利用企業様が自らプレスリリースをタイムリーに配信できるシステムを採用しています。

一方で、ご利用企業様とそのステークホルダーとの関係性を毀損するような事態を防ぐため、プレスリリース掲載基準を設け、弊社スタッフが全てのプレスリリースに順次目を通し、プレスリリースとして公開するに適した内容であるか審査しています。不適切な内容を発見した場合には、速やかに内容訂正や削除など対処しています。さらに内容や結果の重さ、再違反の可能性などを勘案しましてサービス利用停止などの措置をとっています。

(プレスリリース掲載基準：<https://tayori.com/faq/89b604344ebb744dbba41f73d4134560c997a743/>)

プレスリリースの掲載基準は、法改正や社会的状況も考慮し、最新の世情を反映するよう努めていますが、十分に周知できておりませんでした。

6. プレスリリースを配信いただく際のお願い

プレスリリースは社会に向けた公式発表となりますので、事実に基づく発表者の活動を主体として配信いただくよう、お願いしております。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのが、プレスリリースだと考えています。そしてその行動は他の誰かを勇気づけ、多くの人を前向きにすると信じています。

企業活動と言えない内容や第三者の名誉や信用を侵害する内容は、弊社ではプレスリリースと認められません。情報発表には発表者ご自身が一切の責任を負います。その自覚のもとで配信いただくようお願いしております。

この度は、皆様へご心配とご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございません。改めて心よりお詫び申し上げます。

今後もどうか PR TIMES をご愛顧いただけますよう何卒よろしくようお願い申し上げます。

PR TIMES：<https://prt看imes.jp/>

以上